

学校運営協議会（第3回 部会）議事録

校名	大阪府立芦間高等学校
校長名	安田 幸一

開催日時	令和 7 年 2 月 25 日（火） 11:00 ～ 12:30
開催場所	大阪府立芦間高等学校 校長室
出席者(委員)	笹山幸子、千石仮名江、宮坂政宏、草野功一、奥野和夫（敬称略）
出席者(学校)	安田幸一（校長）、岡本崇志（教頭）、興梠裕一（事務長）、川本祥也（首席）、 亀井絵里（首席）、前川佳嗣（産社主担）、木村晋也（総探主担）（敬称略）
傍聴者	
協議資料	資料1 令和6年度第3回学校運営協議会 レジメ 資料2 志望状況の変化 資料3 学校教育自己診断 生徒・保護者・教職員 資料4 令和6年度学校経営計画（評価案） 資料5 令和7年度学校経営計画（計画案）
備考	

議題等(次第順)
令和7年2月25日 第3回 学校運営協議会 議事録 【構成員】 委員：笹山幸子、千石仮名江、宮坂政宏、草野功一、高松真由美、奥野和夫（敬称略） 事務局：岡本崇志（教頭）、興梠裕一（事務長）、川本祥也（首席）、亀井絵里（首席）（敬称略） 【出席者】 委員：笹山幸子、千石仮名江（オンライン）、宮坂政宏（オンライン）、草野功一、奥野和夫、（敬称略） 事務局：岡本崇志（教頭）、興梠裕一（事務長）、川本祥也（首席）、亀井絵里（首席）、安田幸一（校長） 発表者：前川佳嗣（産社主担）、木村晋也（総探主担）（敬称略） 【欠席者】 高松真由美 【内容】 1 校長 挨拶 2 報告 （1）本日の「総探」「産社」の発表について （2）広報と入試について ①入試状況 ②HP 進捗状況 （3）学校教育自己診断結果と分析 （4）学校経営計画 ①令和6年度 学校経営計画 評価案 ②令和7年度 学校経営計画 計画案 3 協議 笹山会長による進行 （1）報告（1）～（4）について協議 4 提言 報告（4）について提言を受けた

5 審議

- (1) 令和6年度 学校経営計画 評価案
- (2) 令和7年度 学校経営計画 計画案

6 校長挨拶

協議内容・承認事項等（意見の概要）

【内容】

1 校長挨拶

安田校長より、学校運営協議会開催への感謝が述べられた。

2 報告

(1) 本日の「総探」「産社」の発表について

- ①見学された運営協議委員より感想をいただいた。
- ②総探主担、産社主担より、発表会について説明された。

(2) 広報と入試について

- ①入試状況について、校長より報告
- ②HP 進捗状況（サーバーの変更、HP のデザイン案）を川本首席より報告

(3) 学校教育自己診断結果と分析

- ①各対象の回収率（生徒 95.3% 保護者 76.0% 教職員 97.0%）について川本首席より報告
- ②昨年度よりも良い回答につながる項目が増えた。
- ③生徒の学校生活への満足度をさらに高めるよう、取り組みを見直す。

(4) 学校経営計画

- ①令和6年度 学校経営計画 評価案
 - ・学校教育自己診断などの結果より、達成できた項目が増えたと評価している。
- ②令和7年度 学校経営計画 計画案
 - ・科目選択や産社・総探を含めた、本校の特色を活かす内容の構築に向けてカリキュラムマネジメントをすすめる。
 - ・改めて、国際理解について取り組みの活性化をめざす。
 - ・HP など、広報活動では発信の機会を増やす。

3 協議

(1) 「総探」「産社」の発表について

- ・合同プロジェクトとして、2 学年約 500 名が参加し、発表活動を行った。
- ・初めての試みであり、うまくいかない部分もあったが、全体としては有意義な取り組みであったと評価された。
- ・発表の経験が不足している点が反省点として挙げられ、今後は発表機会を増やす必要がある。
- ・生徒が自分の興味を深め、さらに充実した活動ができるよう、カリキュラムの改善が求められている。

(2) 広報と入試について

- ①入試状況
 - ・志望者数に関する安田校長より報告。
 - ・昨年度の入試では 1.18 倍の志望者があり、その反動が今年に影響を与えたとのこと。
 - ・私立学校に生徒が流れる傾向が見られ、私立の進学者数が増加している。

- ・学校の教育・自己診断のデータからは、生徒指導に関する方針が影響している可能性がある。
- ・進路指導や教育内容の改善を引き続き進めていく必要がある。

②HP 進捗状況

- ・現在、学校のホームページはサーバーに実装され、内容を作成中。
- ・オープンスクールやインスタなどの活動を紹介。
- ・学校の立地（守口駅から近い）を強調した内容にし、総合学科の魅力や学校の取り組みも掲載予定。
- ・これまでの HP は一部保護者から「見にくい」との意見もあり、今回の改善により、全体としては使いやすくなったと感じている。

（３）学校教育自己診断結果と分析

- ・学校の教育や進路指導に関する自己診断の結果が報告され、全体的には良好な結果が出ているが、若干の改善点もある。
- ・特に HP について「見にくい」「分かりにくい」といったフィードバックがあり、改善が必要とされている。
- ・生徒指導の方針について、納得できていると感じる生徒の割合が減少しており、この部分での改善が求められている。

（４）学校経営計画

①令和６年度 学校経営計画 評価案

- ・学校教育自己診断の回収率が高いこと、その上で結果が出ていることに良い評価をいただいた。
- ・ICT の活用度、進学実績の向上、共生・教育相談の推進、情報伝達・広報の展開、国際交流の活性化が課題としてあげられた。

②令和７年度 学校経営計画 計画案

- ・令和６年度の学校経営計画の評価より、次年度の中期目標の構成を変更し、計画に追加した。
- ・DX 事業の推進を図り、ICT の活用度の向上をめざす。
- ・カリキュラムマネジメント（“芦間高校総合学科 2.0”）を検討し、学びと進路実現の充実を図る。
- ・新しい連絡網での保護者・生徒への連絡手段の構築と新しい HP・SNS を利用した広報活動など、情報発信・周知をすすめる。
- ・国際交流では、新入生から修学旅行先を海外に設定し、海外へ体験交流する機会を設定する。

４ 提言

①報告（４）学校経営計画について

- ・ICT の活用度は続けていくことで上昇するため、今後も取り組みを続けるのが良い。
- ・国際理解教育や多様な進学実績などの要素を学校の魅力として強化し、ホームページを通じて積極的に発信することが重要。
- ・総合学科の内容が伝わっていないので、芦間高校として工夫が必要。
- ・予習・授業・復習のサイクルができていると、進学実績につながる。そのためには、学力のカウンセリングをこまめにする。（未達成・未理解のチェックが必要）
- ・進学実績が重要視される一方で、芦間高校の多様な進路選択を強調する方向性が提案された。
- ・実際、進学型のスタイルではなく、さまざまな進路に対応できる柔軟な学校としてのアピールが可能であるとの意見が出された。

- ・保護者からは、学校の魅力をより分かりやすく伝えるための施策として、多様な進学実績や国際教育など独自の取り組みを強調することが提案されている。
- ・また、学校独自の強みをアピールし、競争力を高める必要があるという意見もあった。

5 審議

- (1) 令和6年度 学校経営計画 評価案 承認された
- (2) 令和7年度 学校経営計画 計画案 承認された

6 校長挨拶

安田校長より、令和6年度協議会での活発な意見交換と審議についての感謝とお礼が述べられた。
次年度に向けて、委員の継続を依頼された。

次回の会議日程	
日時	令和7年 月 日（ ） ： ～
会場	大阪府立芦間高等学校